

今月の断酒表彰

- ☆A・Nさん 南千里支部 断酒六カ月
- ☆O・Hさん 吹田支部 断酒九年
- ☆W・Mさん 南千里支部 断酒十六年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。

断酒に思う (82)

断酒

吹田支部 O・H

私は9年前の8月下旬から10月上旬まで新阿武山病院に入院していました。

入院までは自分のお酒に関しては、問題があるとは薄々は思っていました、それを認めることはなかなかできませんでした。認めてしまえば、お酒が飲めなくなってしまうからです。解ってはいましたが、なかなか認められませんでした。

入院を決める診察の時は、家族との沈黙の時間がお昼過ぎまでかかりました。当時は家族が進めるから、入院するのだと思うようにしました。

でも、本心ではこれでお酒のことを考えなくてよい、少なくとも入院中はお酒が飲めない、又飲まなくてよいのだと思いました。

入院中は考えていたより快適に過ごせました。認めてしまった事で、気が楽になったかもしれません。しばらくは、お酒の事・家族のこと・仕事のこと・友達のことは考えられませんでした。時間割のとおり1日が過ぎていきました。

お酒を飲まない生活が快適に思えるようになっていくことが、正直驚きでした。飲まなくて1日が過ぎてゆくのが、快適と感じるようになりました。退院が近づいても、退院後の生活があまり不安に感じなくなりました。

確かに、職場復帰の時などはギクシャクしましたが、時間がたてばそれもあまり感じなくなったようです。この季節は、入院中のことを思い出すことのできる重要な季節です。

断酒をして時間がたてば、当時のことを忘れがちになりますが、断酒会に入っていることで、それを考えることができる時間を与えられることに感謝しています。

これからも、お酒を飲まない時間を少しずつ過ごしていきたいと思います。



平成29年10月1日発行 No.176
編集・発行 事務局・広報部
<http://suitashi-danshukai.net>

【今月の「指針と規範」】

断酒会規範 四

断酒会員としての活動は、原則として無償である

われわれの断酒活動は意外に費用がかかる。積極的に取組めば取組むほど金額がかさむ。日常的に開かれている断酒例会、全断連主催のブロック大会、全国大会、加えて、各地で盛んに開催されている研修会、断酒学校、記念大会等に参加することによって、われわれには過去の飲酒代に匹敵する出費がある。

しかし、同じ出費であっても中味がまるで違う。一方はひたすらに破滅の道を辿るための経費であり、一方は新しい人生を生き抜くための経費である。すべてが幸福の追求のために支出されているので、誰も惜しいとは思わない。自前であるのは当然のことである。

酒害相談活動は意外に時間がかかる。相談者は、酒を飲み続けるか断つかの二者択一という簡単なことだとは決して思っていない。酒をやめたくてたまらない半面、飲みたくてたまらない欲求にも駆られているので、そうした心の葛藤が整理されるのに要する説得の時間はぼう大なものになる。

また、酒害相談は夜間だけとは限らない。急を要する相談を受けた場合は昼間でも、自分の仕事を放棄して駆けつけることがある。酒害相談活動に積極的になると収入が減るというのは事実である。しかし、どんなに時間を費やしても、どんなに収入が減っても、酒害相談活動は無償である。

われわれは断酒することによって、自分を愛することができるようになった。家族との愛も復活した。断酒仲間は勿論、自分の周囲にいる人たちまで愛せるようになった。人間愛という最高の愛を自分の手にした今、過去の自分と同じ悩みを持つ人たちに奉仕することは、当然すぎるほど当然なことである。

また、われわれが悩み苦しんでいた頃、先輩会員がわれわれのためにしてくれたことを思い出せば、酒害相談活動が有償であってよいわけがない。

われわれがやっと断酒に踏み切り、酒のない生活に喜びを感じ始めたとき、「何かの形で恩返しをしたい」と申し出ると、「同じことを酒で悩んでいる人たちにしてほしい」と断られた。

受けた恩は次の人に、次の人はそのまた次の酒害者につなぐことが、断酒会式での恩返しだと教えられた。これは断酒会員ならではの愛であり、断酒会の尊い伝統である。

酒害相談以外の、断酒会員が他の会員のためにする行為も無償である。同志愛がさすものであるからである。

広く社会に向って行われる酒害啓発活動も無償である。広い視野で考えると、酒害者をつくらないこともわれわれの酒害相談活動の中に入るのである。

ただし、例外も若干ある。

現在の全断連及び地域断酒会の事務処理は、会員たちの奉仕活動によって保たれているが、将来組織の拡大が進み、断酒会員を専従職として雇用する必要が生じたときは有償とする。自分の職を捨てて断酒会の仕事のみに従事する会員が無償であることは、無理がありすぎる。

また、組織の役員たちが、組織を代表して公的な会議に出席する場合は、交通費程度は支払われてよい。そうでないと、経済的に恵まれた人のみが役員にならねばならず、信望のある人が選ばれるという原則が崩れるからである。ただし、支給される交通費は機関の承認を得て予算化されたものである。

われわれの活動が無償であるからこそ、われわれは愛に充ちた日常活動に生き甲斐を感じているのである。

(指針と規範 P59～P62)



みんなの広場

映画「カノン」を観て

南千里支部 D・S

吹田だより28年9月号でも紹介され、29年8月からはDVDも公開となり、今年は、「アルコール依存症」とらえた作品として、京都や三重の断酒会も「市民セミナー」などの取り組みで一般むけに上映されている。

断酒328日目の主人公、「それ飲まんと下に置いたら見逃してあげる」支援者は説得を続けるが・・・「アルコール依存症」という病気が理解されにくい社会環境の中で自己克服していくことは困難である。

病気のため子供たちを傷付けてしまった罪過と孤独感、「アルコール依存症」の怖さとその影響の重さを描いた作品と出会った。

病気であることを知らなかったが故の悲惨などん底の時期、そしてまともな生活への回復の軌跡、このことをより多く、より広く今後も語り続けたいと思った。

富山-金沢-東京と舞台を繰り広げられる 母と三姉妹、家族再生の物語。



〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの

投稿を掲載していきます。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。奮って応募して下さい（広報部）